

京 都 大 学

國文學論叢

第 49 号



材料としての『千載佳句』…………… 宮武 衛 (二)

——『和漢朗詠集』と『新撰朗詠集』——

毘沙門堂藏写本『篆隸文体』とその祖本 …… 仲村 康太郎 (二五)

——兼ねて『千字文』注、『蒙求』注の利用の問題を論ず

『風流志道軒伝』における仙境描写 …… 付 暁 靈 (五一)

——異郷訪問譚の系譜を視座として——

与謝野門下新詩社男性歌人による愛児の歌 …… 宮本 和歌子 (七三)

——田村黄昏、万造寺斉の歌集から——

『日本大辞書』における用例収集法の研究 序説 …… 河瀬 真弥 (八七)

——中古文学における「あさまし」を例に——

令和四年度 修士論文要旨 …… (一〇一)



京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室
令和 5 年 (2023) 9 月

前々号(第47号) 目次

「柳のまゆひらく」小考

——『蜻蛉日記』における

侍の歌の解釈について

張 陵

『枕草子』と漢文学

——附、『源氏物語』の「薄雲」について

大谷 雅夫

安部公房とエドガー・アラン・ポー(一)

——「異端者の告発」「どれい狩り」

「第四間氷期」をめぐって

糸賀 寛

『言海』における

『増補雅言集覧』利用法について

——をしね(小稲)の用例

河瀬 真弥

前号(第48号) 目次

枕詞「瑞垣の」と

被枕「久し」に関する一考察

横内 亮太

能「籠太鼓」における狂いの手法

——物狂の「思ひ」は

如何にして表現されたか

奥田 茉莉子

「三河記」作品群 —— 諸本の分類について

大山 恵利奈

「字音語」についての覚書

佐野 宏

日本現存『類合』及び関連資料の考察(二)

楊 慧京

投稿規定

- 一、本誌は、投稿資格を設けることなく、国語学・国文学に関する論文を広く募集します。
- 一、投稿論文は四百字詰原稿用紙にして四十枚（本誌の頁数で十二頁）以内とし、これを超過した場合、実費をご負担いただきます。
- 一、原稿はなるべく一太郎で、一行二十九字詰で作成してください（一太郎での作成が難しい場合は Word でお送りください）。編集部へご連絡くださいましたら、本誌所定のテンプレートの電子ファイルをお送りいたします。
- 一、四百字詰原稿用紙二枚程度の要約文を添付してください。
- 一、ワープロを使用した場合は、ソフト名（機種）・四百字詰原稿用紙に換算した原稿枚数を明示の上、電子媒体と印字した原稿を同封してお送りください。電子媒体と印字した原稿は返却いたしません。また、メールでの投稿も受け付けています。投稿規定末尾に記載のメールアドレスまでお送りください。メール投稿の場合、紙原稿を郵送いただく必要はありません。
- 一、原稿の締切は毎年二度、七月・一月の末日とします。
- 一、原稿の採否は査読委員会が決定いたします。採否の問合せにはお答えしないことを原則といたします。
- 一、校正は原則として再校までとします。
- 一、論文掲載の場合は本誌三部を贈呈いたします。それ以上の本誌・抜刷については実費を申し受けます。
- 一、掲載された論文は原則として京都大学学術情報リポジトリにその全文を公開します。
- 一、宛先は以下の通りとします。
〒六〇六一八五〇一 京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科国語学国文学研究室内「國文學論叢」編集部
メール kokubungakuronso@hotmail.co.jp

令和五年九月三〇日 印刷
令和五年九月三〇日 発行

京都大学國文學論叢 第四九号

編集発行者

京都大学大学院文学研究科
国語学国文学研究室内
「國文學論叢」編集部
〒六〇六一八五〇一
京都市左京区吉田本町

電話 〇七五―七五三一―八二四

印刷者

京都市南区吉祥院池ノ内町10
明文舎印刷株式会社

表紙題字『易林本節用集』より
（京都大学文学部蔵慶長板）